

太陽ミュージアム No Charity, but a Chance!



外観

大分県別府市の社会福祉法人「太陽の家」に設立された、体験型の「太陽ミュージアム」。屋根を支える長短の鉄柱は多様性を、屋根の形状で分け隔てなくフラットに暮らせる社会を目指す理念を表現している。



太陽広場

さまざまな要素で構成される「太陽ミュージアム」のロゴは、皆で支え合い協働する「太陽の家」のイメージと理念を表現。肢体不自由者が利用する福祉車両も展示され、多くの工夫を体験できる。



創設者
中村裕(ゆたか)

日本パラリンピックの父、創設者中村裕博士が唱えた「No Charity, but a Chance!」の精神を伝えるコーナー。博士の海外におけるさまざまな活動を世界地図にマークし、その足跡がひと目でわかるようにしている。



創設者
中村裕(ゆたか)

1960年代のイギリス製電動車いすや、かつて太陽の家で作った卓袱台の高さに合わせた和室用車いすを展示。さらに開設当時作業場で使っていた、アメリカ製の印刷機も展示している。



太陽の家 挑戦の歴史

「世に身心障害者があっても仕事に障害はあり得ない」という中村博士の言葉と太陽の家の「挑戦の歴史」。歴史年表には当時製造された製品などが多数展示されている。



FOR → WITH
共に生きるとは

太陽の家周辺を中心に別府市における共生の事例をプロットしたジオラマを設置。差別・偏見のない街づくり、共生社会へのヒントを打ち出している。



竹のアートクラフト
「ミンナノタイヨウ」

太陽の光と共生をイメージしたアートクラフト「ミンナノタイヨウ」。別府の特産である約4千本の竹を用い、利用者、職員、関連企業の社員約400人により製作された。



トイレ前通路



館内のシンボリックである、環境グラフィックデザインの帯に用いられた黄色の斜線は、大分県の春分の日、秋分の日、太陽光角度57度をデザイン。色覚障がいの方が認識しやすいといわれる黄色を採用している。



女性トイレ 全体

車いす使用者を考慮したトイレ空間。トイレのあらゆる場面で、車いすでの使用しやすい寸法などが壁や天井に記載され、見学者が高さや配置などをその場で確認できるようになっている。



女性トイレ 洗面コーナー



車いすが入りやすいカウンター式の洗面コーナー。洗面器は、前側のふち部分に両ひじが乗せられ、体が安定した状態で手洗いが可能。洗面台の高さを75cmとし、鏡は床面から80cmより上方へ100cm以上としている。



女性トイレ
大便器ブース



器具のカラーは温かみのあるアイボリー系を採用。大便器の基点(便座上面先)に赤い丸印をつけ、左右均等に35cmの位置に手すりを設けるようガイドするなど、充実した設備記載がなされている。



女性トイレ
大便器ブース



利便性を考慮し、出入口はすべて引き戸としている。鍵の形状は、大きく操作性のよいロックレバーを採用している。

太陽ミュージアム No Charity, but a Chance!



男性トイレ 洗面コーナー

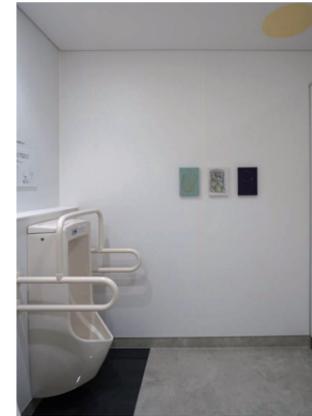


洗面コーナーは、車いすの転回を考慮して余裕のある広さを確保。天井には、車いすでの転回に必要な寸法(直径1.5m以上)を掲示している。



男性トイレ 小便器コーナー

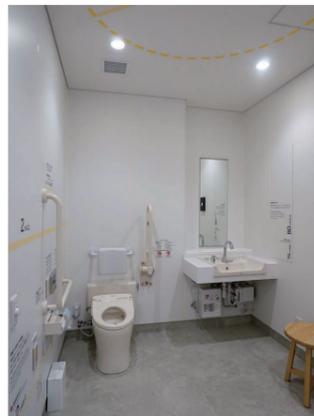
清掃やアプローチのしやすさを考慮して、壁掛型の自動洗浄小便器を採用。壁には車いす使用者が小便器を利用する際に必要な通路幅などを掲示している。



男性トイレ 小便器コーナー



トイレ前の廊下や各男女トイレには、「太陽の家」のアーティストによる作品を展示。作品はマグネット式になっており、さまざまな作品を組み替えて展示することができる。



だれでもトイレ

多様な方に配慮した個室完結型の「だれでもトイレ」を1ヶ所設置。便器には背もたれも設けている。



だれでもトイレ

だれでもトイレ内には、オストメイトに配慮し、コンパクトオストメイトパックも設置している。



だれでもトイレ 寸法ガイド

操作ボタンの配置は、利用者の使い勝手を考慮した配置。紙巻器は上切り型、下切り型の2タイプを設置し、使いやすい方を選んで使用することができる。



だれでもトイレ 寸法ガイド

ブースには、空間サイズや出入口のサイズ、手すり位置などの説明を細やかに掲示。また、だれでもトイレのドアは自動扉としている。



体験ゾーン

市街模擬コースが準備され、車いすに乗って坂道や段差、砂利、踏切レールなどで体験可能。車いすバスケットゴールの高さも試すことができる。



トイレ図面

男女トイレの間には、性的マイノリティにも配慮した、だれでもトイレを設置している。

水まわりの特長

建物の特徴

「太陽の家」は、1964(昭和39)年東京パラリンピック選手団団長を務めた整形外科医の中村裕博士が、1965(昭和40)年に大分県別府市に創設した社会福祉法人。創立以来、障がい者の働く場づくりに取り組み、「世に身心障害者はあっても仕事に障害はあり得ない」という理念のもと、仕事や生活の場においてユニバーサルな環境づくりに努めている。その「太陽の家」の敷地内に2020(令和2)年3月、「太陽ミュージアム No Charity, but a Chance!」が完成。《学ぶ・体験する・感動する》をコンセプトに、障がいの有無にかかわらず、夢や希望をもって未来にむけて一歩を踏み出す未来志向の体験型ミュージアムである。これからの共生生活へ情報発信拠点とし、地域に根付いた交流の場も担っている。

水まわりの特長

ユニバーサルデザインの思想から、すべてのトイレで車いす使用者が利用できるよう配慮している。館内のシンボリックである、環境グラフィックデザインの帯に用いられた斜線は、色覚障がいの方が認識しやすいといわれる黄色を採用している。また、トイレ空間の壁や天井には、車いすでの使用しやすい寸法などを記載。見学者が高さや器具の配置などをその場で確認できるようにし、建物におけるバリアフリーの重要性を表現、訴求している。また「太陽の家」のアーティスト作品を壁や廊下に展示、定期的にさまざまな絵を組み替え、日々新しい空間を感じさせる工夫がなされている。

建築概要

名称	太陽ミュージアム No Charity, but a Chance!
所在地	大分県別府市大字内竈1393-2
施主	社会福祉法人太陽の家
設計	建築 東九州設計工務株式会社 意匠 株式会社乃村工藝社

PJM(プロジェクトマネジメント)	株式会社エム・シー・ファシリティーズ
施工	梅林建設株式会社
竣工年月	2020年3月
敷地面積	3,245.78㎡
建築面積	1,001.50㎡
延床面積	681.09㎡
構造・階数	鉄骨造・地上1階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS49*系
ウォシュレットアプリコットP(温風乾燥付きエコリモン):TCF5840AUP系
自動洗浄小便器:UFS系
ハイドロセラ・フロアPU:AB690BR
洗面器:L350CM
自動水栓一体形電気温水器:RECK03B1S85G1K
自動水石けん供給栓:TLK02S04J
クリーンドライ(ハンドドライヤー):TYC420W
コンパクトオストメイトパック:UAS81LSBINW
パブリック用手すり:T112CL9、T112CU22
化粧鏡:YM3580FC